令和３年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　京都府　】

学校名【　京都府立城陽高等学校　】

１ 実践テーマ	【　Ⅲ・Ⅴ　】
２ 実施対象者	第３学年生徒　299名
３ 展開の形式	（１）学校における活動 ①　行事名（オリンピック・パラリンピック教育講演会） ②　その他（ＬＨＲで実施）
４ 目　標 （ねらい）	（１）トップアスリートの実践に触れさせ、生徒に「スポーツの力」を実感させるとともに、豊かな「スポーツのこころ」を育む。 （２）パラ・アスリートとして自らの状況をポジティブに捉え、夢を叶えるために努力を重ねてこられた経験に触れさせることで、生徒の自己肯定感を醸成する。
５ 取組内容	＜オリンピック・パラリンピック教育講演会＞ （１）日時　　令和３年 11 月１日（月） 午後２時 35 分～午後４時 00 分 （２）場所　　本校体育館・グラウンド （３）対象　　第３学年生徒 （４）講師　　上山　友裕　氏（車いすアーチェリー選手） （５）講演　　「夢を叶えるために」 ＜内容＞ ・両下肢機能障害になって実感した「できないことばかりに目を向ける」のではなく「できることをやる」、そして「障害者を見たら助けよう」ではなく、「困っている人を見たら助けよう」という考え方について ・2016 リオデジャネイロパラリンピック、2020 東京パラリンピック出場と２大会連続での入賞につながった、夢を実現させるための考え方、プロセスについて ・質疑応答 （６）アーチェリー実演 ・本校グラウンドにて 70mのレンジでのアーチェリー実演
６主な成果	（１）トップアスリートの講演から学ぶ 上山選手が、アーチェリーをとおして自らの人生を大きく変えていったことに多くの生徒が共感を覚え、目標を持つことの大切さについて学ぶことができた。夢と目標の違いや、目標を達成するためのプロセスについても具体的に示され、生徒の印象に残るものであった。

	（２）生徒のスポーツに対する興味・関心を喚起する 　アーチェリーの実演は生徒が圧倒される迫力で、アーチェリーというスポーツについて生徒の興味を喚起する内容であった。また、上山選手がパラリンピックに出場された際の逸話や著名人との交流などの話をされ、オリンピック・パラリンピック自体への興味を深めた生徒も多く見られた。 （３）生徒の自己肯定感を醸成する 　何よりも生徒の心に訴えかけたのは上山氏の人間性である。車椅子生活となった自らの状況をポジティブに捉えて人生を歩んでおられる姿が生徒の心に響いた。生徒の自己肯定感の醸成という、本講演会の目標に沿う内容であった。
７ 実践において工夫した点（事業の特色）	講演後、グラウンドで車いすアーチェリーの実演を行っていただいた。大学時代、上山選手とともにアーチェリー競技を行っていた本校教諭と、ゲーム形式で射的を行ったが、非常に迫力があり、生徒の興味を惹くものであった。
８ 主な課題等	（１） 講師の選定 　トップアスリートを講師として招請する場合、限られた伝手の中で選定しなければならないことに加え、日程の調整が非常に困難である。 （２） 実施形態の検討 　トップアスリートによる講演はたいへん有意義であるが、その場限りで話を聞いて終わるということのないように、系統性や双方向性を持たせる等、実施形態については検討が必要である。
９ 来年度以降の実施予定	現時点で未定